

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	0	1	百日咳	2	0
RSウイルス感染症	97	106	ヘルパンギーナ	14	18
咽頭結膜熱	16	14	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	23	27
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	18	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	182	192	流行性角結膜炎(はやり目)	15	15
水痘	38	33	細菌性髄膜炎	0	1
手足口病	12	9	無菌性髄膜炎	1	0
伝染性紅斑(りんご病)	2	4	マイコプラズマ肺炎	2	2
突発性発しん	39	34	クラミジア肺炎	2	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- 突発性発しん

●感染性胃腸炎は、報告数 182 件(前週報告数 192 件)と減少。地区別では、宇城、菊池、熊本、八代に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 35 件を最多に幅広い年齢層からの報告です。

●RSウイルス感染症は、報告数 97 件(前週報告数 106 件)と減少。地区別では、宇城、菊池、熊本、八代に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 34 件を最多に 4 歳以下からの報告です。

●突発性発しんは、報告数 39 件(前週報告数 34 件)と増加。地区別では、菊池、水俣、熊本に多く報告がみられます。年齢別では、6～11カ月の 26 件を最多に 2 歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	40	9	10	41	20	7	1	17			2	9		11		1	2	2
山鹿保健所				10									*	*				
菊池保健所	14	2	9	20	1	3	1	9			1			1				
阿蘇保健所				1									*	*				
御船保健所				3									*	*				
八代保健所	10		1	11	11			1			2	1						
水俣保健所		1	1	5	1			3					*	*				
人吉保健所	7		4	23				3	1				*	*				
有明保健所	5	2	3	34		1		5				1		3				
宇城保健所	19	1		27	5			1			1	6						
天草保健所	2	1	4	7		1				1	8	6						
計	0	97	16	32	182	38	12	2	39	2	14	23	0	15	0	1	2	2

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上					
RSウイルス感染症	97	9	22	34	25	5	2													
咽頭結膜熱	16			4	4	1	3	2		1			1							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32			3	1	6	5	4	3	2	3	1	3		1					
感染性胃腸炎	182	5	19	35	20	13	17	17	5	3	8	7	20	4	9					
水痘	38		1	9	13	8	1	3	1	1		1								
手足口病	12		2	5			1	1	1		1				1					
伝染性紅斑	2				1			1												
突発性発しん	39	1	26	10	2															
百日咳	2	1																		
ヘルパンギーナ	14		2	6	1	4							1							
流行性耳下腺炎	23			2	3	3	3	2	2	4	3	1								
眼科定点年齢区分	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上
急性出血性結膜炎	0																			
流行性角結膜炎	15				1	1						1	1	2	2	1	2	2	1	1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上			
細菌性髄膜炎	0																			
無菌性髄膜炎	1			1																
マイコプラズマ肺炎	2		2																	
クラミジア肺炎	2		2																	

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

ありませんでした。

水痘が増加する季節になりました



水痘(すいとう)は「みずぼうそう」とも呼ばれ、「水痘帯状疱疹(すいとうたいじょうほうしん)ウイルス」によって起こる感染症です。今週は38件で、5歳以下からの報告が9割以上を占めています。発生には季節性があり、例年11月頃から多くなります。

感染力が非常に強く、保育所などでの集団生活の場では、容易に感染し、水をもった赤い発疹が口の中や頭皮、更には陰部まで、全身に出ます。発疹は通常2～3日でピークとなり、その後乾いて黒いかさぶたになります。すべての発疹がかさぶたになると、人にうつすことはなくなります。発疹はかゆみを伴いますので、ひっかいてかさかさしないよう爪は短くしておきましょう。

合併症としては、脱水、肺炎、皮膚の細菌感染症などがあり、脳炎を起こすこともあります。人から人へ感染が起こりやすいため、患者との接触を避けることが予防になります。周囲の発生状況や症状から水痘が疑われる時は医療機関に相談し、受診する場合は、他への感染防止のため受診方法について指示をもらうようにしましょう。

水痘の予防方法としては、ワクチン接種があり、ワクチンの抗体陽転率は約90%と報告されており、効果が高いです。ワクチン接種後に水痘にかかることもありますが、症状が軽く済むことが多いです。このワクチン接種は任意の接種となっておりますので、かかりつけの医療機関へご相談ください。